



江南小だより

八戸市立江南小学校 学校だより
令和5年9月28日発行
通算第550号

いじめ根絶宣言

校長 笹川 カ

令和5年度の前期が終わりました。これまで大きな事故けががなかったのは、ご家庭のご理解ご協力のおかげ、また地域の方々の見守りのおかげであると心から感謝いたします。

さて、9月12日（火）の全校集会では、夏休みに行われた「いじめ問題等対話集会」に参加した2名の児童からの報告と全校児童による「いじめ根絶宣言」の唱和が行なわれました。これは、八戸市内の全小中学校で共通理解されている宣言で、ぜひ大切にしたいと思っています。

【いじめ根絶宣言】（平成8年〈1996年〉制定）

1. 私たちは、絶対にいじめをしません。
1. 私たちは、いじめをやめさせる強い勇気を持ちます。
1. 私たちは、差別をなくし、友情の輪を広げます。

9月19日（火）の全校集会の校長講話でも、「いじめ」についてお話をしました。いじめは、「いじめてやろう」という明らかな悪意のもとで行われる行為は意外と少ないものです。つまり、いじめられている側が辛いと思っても、いじている側にあまり自覚がない場合がけっこうあるのです。いじている側は「相手に非があるから、お互い様だ」「からかっているだけ、ふざけているだけ」「相手も喜んで笑っていた」などといった理屈を主張します。しかし、力関係が不均衡な関係性の中で、長期間にわたって行使されるものは全ていじめに該当します。そこで、江南小の子どもたちに次の3点をお話しました。

- 1 誰かが誰かを注意したときは、他の人は一緒になって責めない。
→1人对多人数はいじめだ。
- 2 絶対に自分が勝つと思える相手とはケンカしない。
→これを、弱い者いじめという。
- 3 どうしても好きになれない相手を、わざわざやっつけない。
→同じ人に繰り返し、繰り返し文句を言うのもいじめだ。



◆ ◆ ◆
それでは、私たち大人はどうしたらいいのでしょうか。

昔から「高い人権意識をもつ大人の近くにいる子どもたちは、周りの人を大切にする子に育つ」と言われています。しかし、私たちは人を見かけで判断し、相手のちょっとした行動で決めつけてしまいます。その方が楽だからです。また、「こうあるべき」と自分が考えていることから外れた人を非難しがちです。でも、自分の正義が絶対の正義とも限りません。相手には相手のストーリーがあるはずなのです。ですから、まずは自分が差別と偏見をもっていることがスタートラインになるのだと思います。そして、おうちの方々には、お子さんの学校での様子をいっぱい聞いてほしいと思います。その際、子どもの話を100%信じたい気持ちを抑えて、「うちの子が加害者になってないかしら」と立ち止まってみることも必要だと思います。子どもが被害者になることには敏感でも、加害者になることに鈍感なのが「親」というものです。いじめのない学校を目指してご家庭でのご協力も、ぜひお願いいたします。